



パーツ・アクセサリも豊富に揃える



店内には厳選されたスポーツバイクが展示されている

東京都心のベッドタウン、東久留米市の滝山に大規模な団地が建設され、1932年創業の滝山スズキサイクルは70年に市内の別の場所から団地近くに移転した。従って、顧客はファミリー層が中心。移転当初は若い夫婦が多く、買い物の一般軽快車やキッズ・ジュニア車を取り扱い車種のメインだったが、そこから50年が経った今は、その若かった夫婦も高齢者の域に入っている。地域密着型の店舗に昨今、そうした未来を不安視する流れは多いが、少し違うのが同店にはスポーツバイクユーザーも頻繁に訪れていること。代表の鈴木栄一郎さんがSBAA PLUSの資格所有者であることがその理由だ。

それらに対し、専門店ではないゆえ実践経験が不足気味であるのが鈴木さんの悩みの1つ。そこに役立っているのもSBAA PLUSだ。「ブラッシュアップ講習で技術を確認し、新たに必要な知識もインプットできている」のだという。「街の自転車さんなのにプロショップに近いメンテナンスが可能ということ、プロショップには行き難いという人等に「駆け込み寺」的な存在に思ってもらえているのは有難い」。スポーツバイクに限らず、最近でいえば特定小型原付等新たな流れについても気にかけており、ブラッシュアップ講習ではそうしたスポーツバイク以外の知識についても、地域の人たちに正しいアドバイスができるよう学ばせてほしいと鈴木さんは要望している。

木さんはSBAA PLUSの資格を取得済みで、団地に住むファミリーの自転車生活を支えるとともにスポーツ色も強めていきたいと考えた。そんな理想と時代の流れは奇しくもマッチしていた。この頃から徐々に、軽快車からライトスポーツ車に乗り換えるニーズが拡大しはじめたのだ。さらに「元々スポーツバイクに乗っていた人が、遠くのプロショップまで行かなくてもここで修理やメンテナンスができると通ってくれたり、インターネットでスポーツバイクを購入した人等も来てくれたりするようになった」。その信頼は、SBAA PLUSで培った知識や整備技術があつてこそそのもの。現在もメインはあくまでファミリー層で、展示のほとんどが一般軽快車や子ども車。つまり、プロショップのような入り難さもない。気軽に立ち寄れる店舗に展示してあるスポーツバイクに興味を持つ、そしてそこには確かなアドバイスができるSBAA PLUS認定者がいる。こうした店舗が全国に広まることが、スポーツバイクが健全に普及していく道なのかも知れない。

あくまでもは地域の人の「口説き」をする店舗

ディスクブレーキ、電子変速ギア、Eバイク等、ここ数年スポーツバイクはどんどん進化しており、店舗側にも新たな知識・技術が必要になっている。

ている。SBAAオフロードバイクディーラーサミットをはじめ自転車協会も後押ししており、影響を受けているSBAA PLUS認定者は多いが、地域内にそのフィールドがあるにもかかわらず鈴木さんは「MTBや現状うちではまかなえないハイエンドスポーツの領域については、プロショップにお任せしたいと思っている。あくまでうちは地域の人の日常を支える店舗。スポーツバイクに関して身近に何でも相談でき、しっかりとサポートしてあげられる存在であり続けたい」という。そんな思いを聞き、昔TVドラマで高度な外科手術ができる町医者物語を思い出した。遠くの大病院に行かずとも身近にその医者がいることで地域に人たちは安心して暮らせる。自転車の分野にそんな存在を創り出せるSBAA PLUSがあるのは、実に心強いことだ。

- ▽住所…東京都東久留米市滝山5-1-18 シアルビル1階
- ▽TEL…042-473-3965
- ▽営業時間…10時～19時
- ▽定休日…水曜日
- ▽創業91年の老舗サイクルショップで、戸数3180と大規模な滝山団地住民の日常の「移動」を支える。ラインナップは一般軽快車が約6割を占め、約2割がキッズ・ジュニア車や電動アシスト自転車、残りの2割がクロスバイク、エンタープライズロード等のオンロードライトスポーツ車。取り扱いブランドはジャイアント、ラレー他、幅広く取り揃える。

一般社団法人 自転車協会

スポーツバイクで困ったSBAA PLUSは

(一社)自転車協会が展開するスポーツバイクを取り扱うスタッフの認定資格「SBAA PLUS」。全国840名のSBAA PLUS認定者は果たして、そこにどんな価値を見出し、ユーザーの安全・安心にどう役立っているのか。今回は東京都東久留米市にある「滝山スズキサイクル」の代表、鈴木栄一郎さんに話を伺った。

ときの“駆け込み寺” 信頼の証



SBAA PLUS 認定証



滝山スズキサイクル



鈴木栄一郎代表